

短期連関型の横断的道德学習モデルの構想と展開[†]

—小学校の場合—

渡邊 弘*・木村 康子**

宇都宮大学教育学部*

小山市立城南小学校**

本論では、道德の時間を要（かなめ）として学校の教育活動全体を通じて行い、さらに各教科や領域との関連を図りながら、計画的、発展的に指導していくという今回の新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、特に道德の時間を効果的に機能させていく一つの方策として「短期連関型の横断的道德学習モデル」の構想と具体的な展開について提案することを目的としている。なお、今回は小学校を中心に考察していく。

キーワード：道德の時間、実践的三段論法、連関、ユニット、言語活動

1 道德の時間と各教科・領域と連携する意義～実践的三段論法を手がかりとして～

道德の時間と各教科および領域との連携の必要性については、すでに拙論『新学習指導要領とこれからの道德教育』（宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要第32号 2009年7月1日所収）で詳述した。この点に関して、ここでは、主要な点のみ再度述べておきたい。

下記の【図1】は実践的三段論法の基本構造である。この構造それ自体が、すでに各教科と他領域との連携の必要性を示しているといえる。

【図1】実践的三段論法の基本構造

【裁判官的機能】

[大前提] 道德的原則【原則的知識】…道德に関連

①↑ ↓②

[小前提] 状況の認識【事実的知識】…教科等に関連

③↓

[結論] 行為の選択・決定

「～と考えた方がよい」という判断→ a.相互性、
b. 効用性、 c.論理性（3つの要求のバランス）

↓

道德的实践へ【行為】…特別活動、総合的な学習の時間、さまざまな体験活動に関連

すなわち、私たちがある行為において善悪の判断を行う場合、「小前提」における個別の状況を認識するところからはじまるはずである。その際、その置かれた状況を把握するためには当然本人のさまざまな事実的知識を駆使して把握しようとするわけである。それはまさに各教科の問題である。さらに、具体的な状況認識の後、それに相応しいと思われる

【大前提】の部分にあたる「～すべき」という当為としての原則的知識を引き出して、置かれた状況と照合する。ここでの原則的知識とはいわゆる慣習的道德としての道徳的価値にあたるものである。

そして、最終的に【結論】として「～したほうがよい」という判断を下すことになるはずである。この場合、単に「好き」「嫌い」あるいは「好ましい」「好ましくない」という功利主義的な性質のものとは異なるという点に注意しておかなければならない。もちろん「効用性」の要求は含まれているものの、それ以外に他者との関係に基づく「相互性」やつじつまが合っているかどうかといった「論理性」の各要求も同時に含まれているということである。さらに、こうしたプロセスを経た善悪の判断は、実際の行為の中でいかに生かされるかが次に問題となってくる。その部分を学校教育において担うものが特別活動や総合的な学習の時間、あるいは今回小学校に加えられる外国語活動などの諸領域である。

以上のように、この実践的三段論法に基づく基本構造からも明らかのように、一個人が、ある一定の状況において価値判断をし、さらに実践していく場

[†] Hiroshi WATANABE* Yasuko KIMURA**:
Study on Moral Learning Cooperated shortly
with Subjects and Fields

* Faculty of Education, Utsunomiya University

** Oyama Jyonan Elementary School

合、必ず事實的知識、原則的知識、実践的行為が總體的に要求されてくるわけである。その意味で、道徳学習上、道徳の時間と各教科・領域と連携していくことが重要となるのである。(なお、実践的三段論法の重層構造については、拙論『新学習指導要領とこれからの道徳教育』を参照していただき、ここでは省略する)

では、各教科や領域とどのように「連携」していけばよいのか。この点について次に考えてみたい。

2 総合単元的道徳学習の意義と課題

各教科や領域との連携についての道徳学習論は、これまでも存在している。その代表的なもの、平成元年(1989年)に学習指導要領が改訂された際に提案された押谷由夫氏(当時文部省初等中等教育局教科調査官、現昭和女子大学教授)が開発した「総合単元的道徳学習」である。

総合単元的道徳学習とは、「学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じ道徳性を育む場を総合的にとらえ、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の特質を生かして行われる道徳学習である。「道徳の時間」を中核として1時間1主題という考えを超え大きく「単元のくくり」を考え、教科やさまざまな体験活動を多様な方法を用いて柔軟な授業の組み立てを行う。この考案と試み自体は、意義あるものであるといつてよい。だが、課題も存在する。私たちがこれまでで学習方法を実践してきた経験を踏まえながら、それらの課題について、次に具体的に何点か指摘してみたい。

① 課題意識継続の難しさ

単元を構成する期間が長く、構成する範囲が広くなるため、児童の意識を継続させながら教科・領域と道徳授業を関連させることが困難である。これは、同一価値を統合させての単元構成を構成させる場合に感じることである。関連させようとする教科の内容や体験活動をつなぐので、単元構成の際、連携させる授業が多くなれば多いほど児童の意識をつなぎ留めておくことが難しく、児童の思考の発達段階にそぐわない場合があった。単元の流れを教室内の掲示物に残し「この体験活動を思い出して道徳の時間を考えていくよ。」と投げかけても、新鮮な感情を呼び覚ましていくことはとても難しい。これは、学年が下がるにつれて困難を極めた。短いスパンでの

連携の必要性を感じたことが何度もあった。

② 単元構成と実践の難しさ

総合単元的道徳学習は、体験活動を結びつけて道徳の時間を考えることが多い。まず、体験活動を道徳の時間に関連させて学習した後、その高まった道徳的実践力を次の体験活動や教科等に生かして実践させるのを待つ間が空いてしまうことが多くあった。同じ道徳的価値を内包する行事や様々な体験活動が、都合よく接近した状態で学校生活で行われることが難しいからである。複数の価値を統合させる場合や体験活動と道徳の時間を総合させる場合がこのような課題に直面することが多かった。もっと接近した学習活動の中で、その道徳的価値を明確に洗い出して焦点を当てて価値を考える場やその価値の実践の場を設ける必要があると感じた。

③ 道徳的实践に結びつけていくことの難しさ

総合単元的道徳学習では、教科や領域の中で考えた道徳的価値の内容が、道徳の時間に向かって構成されていることが多くある。教科等や活動を伴わない領域を関連させる際に見受けられる形であるが、この構成は、道徳的実践の場へのつながりが十分意識されずに行われることが多くある。新学習指導要領道徳編解説編31ページには道徳的実践力の育成と道徳的実践とを繰り返すことによって、道徳的実践力が強められることがあげられている。具体的な道徳的実践の場を明確に設定することが今危急の課題である。

④ 計画・準備の設定自体に時間と労力が必要であることの難しさ

ねらいに統合されるべき価値要素の吟味、教科領域等との効果的な連携など教育活動を見通した計画・準備が必要である。そのため、日常的に総合単元的道徳学習を実施していくことが難しい。もっと日常的に教科・領域と道徳授業を直接的・短期的に連携させる学習方法の必要性を感じる。

以上のことから、総合単元的な道徳学習の利点を残しながら、児童の道徳性の育成のために新しい道徳学習方法を考えてみたい。

3 短期連関型の横断的道徳学習の構想と展開

(1) 短期連関型の横断的道德学習と総合単元的道德学習の比較

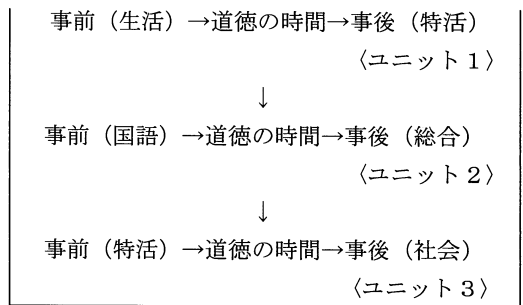
「短期連関型の横断的道德学習」とは、先に紹介した、いわゆる総合単元的な道德学習として展開されている道德授業の長所である「道徳的価値に関連するいくつかの教科や領域による体験活動を道德の授業と結びつけることで価値に迫りやすくする」ところを生かし、教科や体験活動とのつながりをより短期的で直接的なものにすることで、一層の効果をねらって新しく構想されたものである。「短期連関型の横断的道德学習」と「総合単元的道德学習」との主な相違点をまとめれば次のようになる。

<p>【短期連関型の横断的道德学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心は道德の時間の工夫 ・教科・領域との関連が密接 ・比較的短期スパン ・特定の道徳的価値と教科・領域との関連が直接的である
<p>【総合単元的道德学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心は総合単元の設定 ・教科との関連はゆるやか ・比較的長期スパン ・特定の道徳的価値と教科等との関連は直接的ではない

また、短期連関型の横断的道德学習の具体的構想として留意すべき点として次の2点が考えられる。

まず、第1は、道德の時間の学習を中心(要)に位置づけるということである。ただし、このことは、教科指導の道德教育は、教科指導の道德教育化であってはならず、教科指導には、教科固有の目標があるわけであり、道德教育あるいは道德の時間の目標を併存的に掲げて行うことは、いわば「二兎追うものは一兎も得ず」ということになるということを肝に銘じ置かなければならない。

第2は、子どもが道德性をはぐくむ場を、事前、事後を一つの〈ユニット〉として短期的にとらえて構成し、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の特質を生かし関連づけながら行うことが大切であるということである。(【図2】参照)



第3は、事前事後によって構成されたユニットを、さらにダイナミックに緩やかなつながりをもたせて連続的に構成するということである。

そして第4は、道徳的価値にかかわる学習を、道德の時間を中心に有機的なまとまりをもたせて、子どもの意識の流れを大切にされた道德学習ができるように援助していくということである。短期連関型の横断的道德学習の実際に関しては次章で述べることとする。

(2) 短期連関型の横断的道德学習の理論と類型

短期連関型の横断的道德学習は、「学校における道德教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである。」といった道德教育の原点に立ち帰り、子どもの道德性の育成を目指したより効果的な学習を進めるために、道德の時間を要として教科や特別活動等との関連を一層密接にしなが、子どもたちの道德性の育成を図っていく道德学習理論である。連関とは、互いに独立したそれぞれの教科・領域が道德の時間を要として相互作用の中でよりよく生きる力を養っていくという意味がある。それぞれの教科・領域のねらいを損なわないように留意しながら、道徳的価値で関連した授業を構想した。以下に述べる内容は、それから明らかになったことをまとめたものである。

- ① ねらいを明確にする。価値項目ごとに連関図を作成し、系統性を重視しながら価値を分析し、1ユニットごとの主題を明確にする。
- ② 道德の時間を中心としてユニットを構成する。その際、隣接した時期に学習する教科の内容や、近い時期に実施する行事や特別活動等のねらいの中から、ねらいとする道徳的価値の主題に関連する部分を吟味し、抽出して、短期的なスパンで連関させ1つの道德授業で1ユニットを構成する。

【図2】

③ ユニット内の教科や領域を連関させることを通して道徳性の育成を図るため、連関した教科や領域と道徳の時間をつなぎ、意識を連続するための「道徳的価値を意識した言語活動」を工夫し明確にする。

④ ユニットはすべての内容項目の道徳的価値について作成し、偏りなく道徳的価値が全教育活動全体の要となるようにする。

(3) 内容項目の連関性

内容項目は、周知の通り、平成元年から①主として自分自身に関すること ②主として他の人とのかかわりに関すること ③主として自然や崇高なもののかかわりに関すること ④主として集団や社会とのかかわりに関することに分類されたわけであるが、これらを関連させた実際の道徳学習に関しては、これまで十分検討されてきたとはいえない。そこで、今回の新学習指導要領の解説では、大まかに次のような流れを参考として提示している。

- ① 1の視点の内容を基盤→2, 3, 4の3つの視点に連関→再び1の視点へ
 - ② 2の視点の内容を基盤→4の視点へ
 - ③ 1及び2の視点から自己の在り方を深く自覚→3の視点→4の視点へ
- 1と2の視点が基盤となり、そこから3の視点あるいは4の視点へ広がっていき、さらに1, 2の視

第4学年 年間指導計画と内容項目の連関性

月	主題名	資料名	内容項目	連関性
4月	健全な生活態度	目ざまし時計	1-(1)	基盤
	夢をかなえるために	いつかにじをかける	1-(2)	
	心のかよい合い	「ありがとう」の言葉	2-(1)	
5月	まっすぐな心	サシの実	1-(4)	広がり
	残しておこう	じいちゃんが教えてくれたこと	3-(2)	
	進んで活動する	卓字メニューにちょうせん	4-(2)	
6月	社会のルールを守る	雨のバスでいりゅう所で	4-(1)	深まり
	家族の助け合い	お母さんのせいきゅう書	4-(3)	
	思いやりを行動に	何かお手伝いできることはありますか	2-(2)	
7月	友情の大切さ	とべないぼたる	2-(3)	深まり
	楽しいものに感謝	一びきのせせにありがとう	3-(3)	
	栄誉の尊重	わたしの見つけた小さな幸せ	3-(1)	
9月	強性の尊重	うめの木村の四人兄弟	1-(5)	広がり
	みんなの場所を	日曜日のバーベキュー	4-(1)	
	感謝する心	しょうぼうだんのおじさん	1-(2)	
10月	自然への優しさ	ごめんねサー	3-(2)	広がり
	自分のことは自分で	ぼくの郵便	1-(1)	

月	主題名	資料名	内容項目	連関性
10月	真心の美しさ	花さき山	3-(3)	基盤
	明るい心で	ひびが入った水そう	1-(4)	
11月	くじけず最後まで	ぼくのへんしん	1-(2)	広がり
	自分の学校のよさ	教室にひびくファンファーレ	4-(4)	
	温かい心を	親切な方へ	2-(2)	
12月	友達へのよさ	ぼくらだってオーケストラ	2-(3)	広がり
	わたしたちのふるさと	ふるさとを守るたいぢョウ	4-(5)	
1月	社会のために	できることから	4-(2)	深まり
	うけつがれる命	バルパオの次	3-(1)	
	日本のよさ	ふるしき	4-(6)	
2月	なによりも尊いもの	走れ江ノ電光の中を	3-(1)	基盤
	思いやりを行動で	ボロといっしょ	2-(2)	
	勇気ある行動	ドッジボール	1-(3)	
3月	きまりを守る	年老いた旅人	4-(1)	広がり
	家族みんなで	千代とわたし	4-(3)	
	ものを生かす心	おもちゃリサイクル	1-(1)	
4月	友達への注意	大きな絵はがき	2-(3)	深まり
	態度ある生活態度	携帯電話の落とし穴	1-(1)	

点へ戻るのが基本的なパターンと考えられる。これをもとに、実際の内容項目連関図を作成した。上記に示した図である。

道徳的価値ごとに連関表を作成し、系統性を重視しながら道徳的価値を分析し、1ユニットごとの主題を明確にした。以下に示す。

短期連関性の構造的連関学習構想図	平成22年度 第4学年	主な言語活動
短期連関性の構造的連関学習構想図	ねらい 友誼を深めよう 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う心を養う。	連関時間 2-(3) 中心価値 2-(2)
連関理由	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。	指導 「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
6月	学習活動 「2学期を振り返って」 行事が多い2学期。友達と協力しあうこと。友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。	指導 「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
7月	楽しいものに感謝 一びきのせせにありがとう	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
8月	友情の大切さ とべないぼたる	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
9月	強性の尊重 うめの木村の四人兄弟	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
10月	真心の美しさ 花さき山	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
11月	くじけず最後まで ぼくのへんしん	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
12月	社会のために できることから	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
1月	なによりも尊いもの 走れ江ノ電光の中を	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
2月	思いやりを行動で ボロといっしょ	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
3月	勇気ある行動 ドッジボール	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
4月	きまりを守る 年老いた旅人	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
5月	家族みんなで 千代とわたし	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
6月	ものを生かす心 おもちゃリサイクル	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
7月	友達への注意 大きな絵はがき	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。
8月	態度ある生活態度 携帯電話の落とし穴	「友誼の大切さ」 「とべないぼたる」 2-(3) 友達を信頼し助け合う心をはぐくむこと。互いに信頼し助け合うこと。互いに助け合うことができるようになる。

この構想の手順でユニットを構成した際の単元構成について、3つの類型にまとめることができた。短期連関型の横断的道德学習は、教科・領域・道德の時間を連関することが基本であるから、それをふまえて際だった特徴を捉え、学習構成について類型すると次のようになる。

【類型1・体験活動連関型】

特別活動、児童会、総合的な学習、外国語活動、行事などの体験活動と道德の時間の指導を直接道德的価値によって結び、児童の道德性を更に高めようと意図してユニットを構成したものである。道德授業の事前に体験活動を構成する場合、まず、活動の中で道德的価値に関する自分の行動を把握・認識する。道德的価値に照らし合わせ、認識した自分の行動を文章や絵などの言語による表現活動に表しておき、道德の時間に生かしながら道德的実践力を高めていくようにする。道德授業の事後に体験活動を行う場合は、道德的実践の場になるようにする。これにより、体験活動が道德的価値に支えられて、更に充実した活動となることが期待できる。

例 高学年 学習名 「よき校風を受け継ぐ」

- ①社会「江戸の文化」
- ②道德「せんぱいの心を受け継いで」4-(5) 愛校心
- ③行事「小山市民文化祭音楽発表会参加」

【類型2・知識習得連関型】

道德と各教科及び特別活動、児童会活動、総合的な学習の時間、外国語活動、行事などの中で、体験活動を伴わない学習を連関させて構成する。このユニットの特徴は各教科・特別活動等を道德的価値で連関させて短期的に学習するため、子どもたちが意識の中での価値継続が容易で、知識習得活動に主体的に学習に取り組むことができると考える。実際の学習活動中の道德的価値に着目し、それを道德の時間に生かすことで、価値に対する内面的自覚が深まると同時に教科や特別活動固有の本来のねらいもより質の高い内容で達成されると考える。

例 中学年 学習名 「命を大切に」

- ①学級活動「人権週間」
- ②道德「車いすの青春」3-(1) 生命尊重
- ③理科「生き物の一生」

【類型3・複数価値連関型】

一つの行事に、「実践の場」と「事前となる共通体験」にする複数の道德的価値を連関させる。道德的実践の場としての行事になると同時に、他の道德的価値も連関させ、複数の道德的価値の側面で行事を捉えていく。行事の活動は道德的実践の場となっているから、児童はそのねらいとする価値に合う態度で参加するとともに、一方で他の価値についても心にとめながら活動することになる。それゆえに、行事はおのずと有意義な活動になると考える。

例 低学年①生活科「秋の自然」

- ②道德「うさぎのえんそく」4-(1) 公德心
- ③行事「秋の遠足」(公德心の実践・自然愛の事前活動)
- ④道德「やさしいきもちで」3-(2) 自然愛
- ⑤国語「しらせたいな みせたいな」

以上の三つの類型を、さらに教材として短期連関構成を事例的にまとめたものが次の表である。

【類型1】短期連関構成

①短期連関型の横断的道德学習名「よりよい校風をつくろう」第6学年

短期連関型の横断的道德学習構想図 平成23年度 第6学年

短期連関型の横断的道德学習名	ねらい	道德領域	1時間	
よりよい校風をつくろう	先生や学校の人々への敬意を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	中心価値 関連価値	4-(6) 4-(3)	
連関構想の理由 小学校の最高学年としての自覚をもち、学校を愛する心で、よりすばらしい校風をつくるため積極的に取り組む態度を養う。				
時期	事前	道德の時間	事後	主な言語活動
10月 ユ ニ ツ ト 1	社会「江戸の文化」 江戸時代の文化を理解し、今に伝えられているもの・受け継がれているものがよりよい文化を作り上げたことを押さえる。	【徳心】 4-(6) 「せんぱいの心を受け継いで」 最上級生としての役割を自覚し、学校を愛着をもち、進んでりっぱな学校を作ろうとする態度を養う。	行事 【小山市民文化祭音楽発表会】 6年生が毎年出場する音楽発表会に参加するため、毎日歌の練習を行い、よき伝統を受け継いでいく。	招状状を書いた広美の気持ちを考え、話し合う。

【類型2】短期連関構成

○短期連関型の横断的学習を「あきらめずがんばりよさをのぼそう」第4学年

時期	事前	道徳の時間	事後
4月	総合的学習 「リサイクルって何」 葉がと削ぎを分けて 文庫にしたり新聞に ぼとめたりすること を私が強くやり過ぎ ることを伝える。	【不とう・不届】 1-(2) 【いつかにしをかける】 あきらめずに取り組 むことも、今よりも よくなるかなと思う心 態を育てる。	道徳 価値の感じ 気運の感じを体験に即する ため、グループごとに道徳 の価値を決定し記録する仕 事柄が深くやり過ぎるこ とを伝える。 体育 目標 自分のめあてをもち、個 人的取り組み、あきらめずに 努力する。



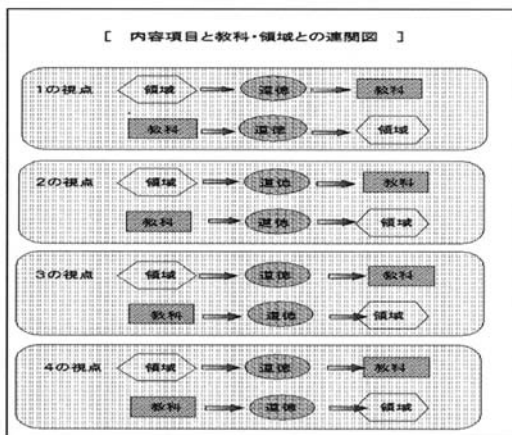
【類型3】短期連関構成

時期	事前	道徳の時間	事後	学習活動
11月	生活 【冬の自然】 冬の自然の観察を する際、約束やさま まりを守って、公共物 を大切にしながら観 察する。	【公儀心・規則の 意識】 4-(1) 【うさぎのえんそ く】 みんなで使う物 を大切に、人に 迷惑をかけるな いようとする 態度を育てる。	行事【秋の遠足】 約束やさまりを守りな がら、楽しく遠足に参 加する。	生活科補助活 動を思い出し ながら、資料 中の人物の気 持ちは発表す る。
11月	行事 【秋の遠足】 秋の自然の様子に 目を向けながら、自 然の美しさや移りゆ く季節の動物のよ さを伝える。	【やさしい気持ち で】 3-(2) 【ぼくのしろくま】 優しい心で動物 物をかやいがり、 生き物を大切にし ようとする態度を 養う。	図書【しらせたいな みせたいな】 好きな動物を見つ け、よく見て書き表 し、家の人に知らせ る。	遠足等で生き 物や自然にふ れあう体験活 動を思い出し ながら、資料 中の人物の気 持ちは発表す る。

(4) 内容項目と教科との連関図

道徳の内容項目と各教科・領域との連関は、8つのユニットの形から構成される。

道徳性の育成とともに言語活動を視野に入れた連関を構想すると、このような流れでユニットを構成できる。こうすることで、道徳性の育成とともに言語力向上も図ることができる。



(5) ユニットを立てる場合の留意点

① 道徳的価値の系統性の配慮

道徳的価値には、学習指導要領解説道徳編にあるように、学年に応じた系統性がある。そして、解説道徳編の内容を分析すると、その学年内の価値項目にもいくつかの側面があることがわかる。それぞれの価値項目を分析し、その内容を同じ内容項目の構成ユニット内で分ける。それぞれのユニットにあるねらいを確実に学習することで、計画的に系統的な道徳性育成を図ることができる。と考える。

② 連関させる教科や領域の選定

教科や領域を連関させる際、ユニットのねらいとする道徳的価値がどの教科や領域に内包されているかを考えて構成する。その際、短期的に価値の追求ができるように、隣接した時期の学習を選ぶようにする。

③ 教科固有の目標の重視

教科と連関させる際、教科固有の目標があるので、その課題追求が授業の中心となるようにする。道徳的価値に関連する児童の学習活動はそれに付随するものとなるように活動を工夫する。具体的には、児童に学習課題を提示する際に、その教科指導の中で連関させたい道徳的価値追求の言葉を一言付け加える。児童は、授業中の意識の中にそのことを置きながら学習に取り組む。そして、授業中や終末に自己の取り組みを道徳的価値についても振り返る。考えたことは、その教科のノートや学習カード、作業用紙などに書いておき、道徳の授業に生かしたり、道徳的実践の場としたりする。

④ より質の高い学習活動の連関

特別活動や行事、総合的な学習と連関させる場合、活動中意識させて取り組むことで、その活動がより質の高い内容になる価値との連関を構想する。行事等には、様々な価値が混在する。その中で特に強調することで、活動の質が高まる内容項目を選び、連関していくことが道徳的実践力の育成やよりよい道徳的実践の場となる。これを積み上げていくことがよりよく生きる力の育成につながると考える。

⑤ 言語活動の充実

ユニット内で考えた道徳的価値に関する児童の思いは、連関させている教科や領域の中で行われている言語活動に付随して表現していく。具体的には、教科や領域で使う言語活動に関する学習活動(話す、書く)などに道徳の項目を1つ連関させる。児童は教科・領域固有の目標に取り組みながら、道徳的価値の側面についても同時に考えて言語化する。そうすることで、無理なく連関させていくことができると考える。

4 おわりに

以上、学校(ここでは小学校を中心に)において、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて、いかに道徳教育を機能させしていくかという観点から、「短期連関型の横断的道徳学習モデル」の構想と展開について具体的に論じてきた。

はじめにも述べたように、そもそも実践的三段論法の構造に照らして考えた時、個々の児童一人一人が価値判断を行い実践行為に移していく際、主に原則的知識の理解を中心とする道徳の時間だけで学校

における道徳教育が機能するわけではないのであり、教科・領域と連携していくことにより実現していくものであることをしっかりと認識しておかなければならない。合わせて、今回の学習指導要領の道徳編でも重要事項として指摘されているとおり、発達段階に則した内容項目の系統的理解や言語活動の充実なども、合わせて各学校で検討し、授業の中で実践していくことが重要である。その意味でも、今回提案した「短期連関型の横断的道徳学習モデル」がその一助となればと考えている。なお、今回は小学校を想定して検討してきたが、今後はこのモデルの構想と展開を参考としながら、教科担任制を中心とする中学校の場合を検討していきたい。

【参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編付録3』東洋館出版社、文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編付録3』日本文教出版。
- 2) 村井実『道徳教育の論理』東洋館出版社、1981年。
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳編』2008年8月。
- 4) 押谷由夫『総合単元的道徳学習論の提唱－構想と展開－』文溪堂、1995年。
- 5) 渡邊 弘「新学習指導要領とこれからの道徳教育」(宇都宮大学教育学部教育実践センター紀要第32号2009年7月1日所収)。
- 6) 渡邊 弘『学校道徳教育入門』東洋館出版社、2007年。